

## 大草谷津田いきものの里 自然観察会

### アカガエルの卵をさがそう

石嶋基次（千葉市）

日 時：2012年2月5日（日）10:30～12:00 天候：曇りのち晴れ

参加者：22名（大人13名 子ども9名）

担当指導員：山岸文子・石嶋基次

立春を迎えても春の訪れは遅く、日本海側や東北・北海道地方は大雪に見舞われ、被害が出ており、大草も凍りついている状態での観察会になりました。この寒さなので参加者は来るのか心配しましたが、定刻には元気な子どもたちを連れた親子組など22名の参加者が集まり無事に開催出来ました。

「いきものの里」の成り立ちと注意事項、今日の観察目的を説明してスタート。参加者が地面に落ちたキズタの葉の裏に止まり、寒さで身動きの出来ないウラギンシジミを拾い、皆で観察、林の中に戻しましたが、命がけの成虫越冬です。竹林では割れた竹の溜り水も凍っています。

谷津田の水源、自噴井の水温測定(14℃)を行い、特徴と稲作対策などで昨年秋から取り入れた流水方法などを説明。全面に水の張られた田んぼの前で卵塊を探しましたが、卵塊は発見出来ませんでした。氷の張った冬の谷津田には、鳥の姿も見られませんでした。

連日の低温では産卵されていないのは下見で分かっていたのですが、参加者が自分の目で確かめて、その理由をなぜ？ なぜ？ 問答で資料を説明しながら一緒に考えてもらいました。

- 資料 1) 2007年と2011年卵塊数・産卵場所の比較・2001年～2010年産卵数記録グラフ  
2) ニホンアカガエルの産卵条件と自生地としての生態環境  
3) 谷津田周辺の生き物の食物連鎖・自然環境

昨年末から現在までの気象変動を考え、目の前の凍てついた谷津田の光景に納得。しかし07年(537)に比べ、10年(169)、11年(81)と卵塊数の大幅な減少に参加者も心配をしていました。

ハンノキ林近くの田んぼで茶色の鉄細菌に触れ、油でないことを確認、水路でカワナを採取、ホタルとの関係を知り、斜面林下の畦道で咲くタチツボスミレを子ども達が見つけて、僅かな春の気配を感じてもらい、真冬の谷津田観察会は終わりました。

～～ 春よ来い、早く来い ～～

《参加者の感想》カエルの卵塊数の減少はとても残念。自然の息吹を感じられ、子どもの頃にカエル事が出来た。初めて参加した、長靴を用意して次回また来たい。

《担当者感想》前回に続いて実物を見られない観察会になってしまった。「いつでも、どこでも」の精神で条件変化の中、次の観察会に繋げられたと思う。元気な子どもと親子での参加が多いのがうれしい。

